



【ただすべてが主の恵みです！】

聖書の本文： マタイ 25:21/ 暗唱：コリント人への手紙第一 15:10

説教者：鄭南哲 牧師

< はじめに >

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

クリスマスシーズンの一週間も主の平安の中でお元気でしたか。まず愛するみなさん！今年のクリスマス会のため大変お疲れ様でした。先週行なわれた CS 子供クリスマス会やその後みんなのクリスマス会の時はとても楽しく、恵まれて、感謝そのものでした。クリスマスの準備のため飾りとかお土産、献金などで仕えて下さった方々、MC や賛美、子供たちの歌と踊り、証し、ハンドベル、劇、アカペラ、クイズ、ビンゴ大会までみんなが主にあって一つの家族となって喜んで奉仕をして下さったことを心から感謝いたします。みなさんの愛の労苦を覚えて下さって我々の天の父なる神様がみなさんの上に豊かに祝福し、報いてくださるよう主イエスキリストの御名によって切にお祈り申し上げます。

さて、今日は 2012 年今年の最後の礼拝となりました。お互いこのように挨拶を交わしませんか。

“一年も本当にお疲れ様でした。”、“あなたのお陰で今年 1 年も本当に感謝でした！大切なあなたの存在に心から感謝しています！”

<1. 主の御前で主のもの(教会、牧者、クリスチャン)みんなが主からほめられるわけではありません。>

今日の本文は皆さんがよくご存知であるタラントのたとえの御ことばです。この比喻での主人は神様であるイエスキリストを意味し、しもべたちは私たちを意味しています。この比喻の話でわれわれの主人が自分の財産をおのおのその能力に応じてあるしもべには 5 タラント、あるしもべには 2 タラント、あるしもべには 1 タラントを預けたという事(14 節)を皆さんはよく知っていると思います。そして、その中 5 タラント、2 タラント、1 タラントを預かったしもべたちの中、二人は主人がいないうちに主人から預けられた物をい忠実に働いた後、主人が帰られた時に“よくやった！善い忠実なしもべだ！”(21, 23 節)と誉められました。

しかし、もう一人は主人の御心に適わず、主人から預けられた尊いものをそのように受け止めず、自分勝手に行ったため

“悪い怠(なま)け者のしもべだ！(26 節)”と厳しく怒られました。

愛する主にある家族の皆さん！いつも主の御前で忘れないようにしようとしていることがあります。

それは地上の上にあるすべての主の教会、すべてのしもべたちや信じているクリスチャンたちが主の御前で必ずしもめられたわけではない！ということです。今日の一タラントを預かったしもべも、黙示録 2-3 章にも、小アジアの 7 つの教会でも貧しいかったし、小さな群れの教会でしたが、どんな苦しみと試練の中でも愛を持って信仰と御言葉を守っていたスミルナ教会の人々、そして、力を尽くして主を愛し、兄弟たちをも命のように愛していたフィラデルフィヤ教会の人々は主からほめられることばかりでした。しかし、主から賞賛とし叱りを共に受けた当時大きな町エペソで大きな規模の教会でありながらも賞賛と共にはじめの愛を失ってしまって叱られたエペソ教会、生きているようですが、実際は死んだ教会の人々であるとサルデス教会も、それ以外のペルガも教会とテアテラ教会も主からの賞賛とともに叱られました。ところが、ラオデキヤ教会の人々は主の口から吐き出したいほど厳しく呪われたばかりの教会もありました。

つまり、今年一年が終ろうとしている今のところ、生きておられる主イエスキリストの御前で、今年一年のことでみんながほめられるわけではなく、主の教会も、牧師たちや教会の信徒たちも、クリスチャンたちの中でも叱られるところもあるという意味でしょう。

今年の最後の礼拝のこの時間！もし私とみなさんが今も生きておられる主の前で立つ事になるとしたら、どう評価され言われると思いますか。3 人のしもべの中でどうして二人のしもべだけが“よくやった！善い忠実なしもべだ！わずかなものに忠実だった！”とみとめられ、誉められたようにクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさんも主からそのようにされると信じます。今年 2012 年も一人一人がわずかなことでも主にあって自分に与えられている信仰と心を持ってともに仕えて来て下さったので、私はそう確信し、主に感謝しています。もし、個人的にすべてを知っておられる主の御前で自分が来年はもっとやり直し、忠実にしなければなりないと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、まだ大丈夫です。また主に悔い改めつつ、今日から改めて始めれば大丈夫ですから！！主は私たちにそのような新しいチャンス、機会をまた下さるために今日今年最後の礼拝を開き、みなさん一人一人をここまで導いて下さったのではないのでしょうか。

<2. 忠実であることの意味は>

原語から見出される内面的な誠実性。

今日の本文の中で重要な言葉である忠実ってどんな意味だと思いますか。主の前で‘忠実’であるということはどんな意味でしょうか。ただ一生懸命頑張る、必死に努力する、何でもやるという意味なのでしょうか。イエス様は 5 タラント、2 タラントを もらった人を誉めながら‘良い忠実なしもべ’だと言われましたが、ここで‘忠実’という言葉はギリシャ語で‘ピストス’という形容詞が使われました。これは‘頼もしい、信頼できる、最初と同じように変わらない’という意味です。まず、この原語を通して一つ覚えておく事は、**忠実という言葉は‘信仰’という言葉とほとんど意味が同じである事です**。これは目にみえる誠実さより内面の誠実さ、内面の真実性を言います。つまり、**最善をつくす誠実な態度**だと言えます。信頼できるように、変わらない、一貫性がある、最高ではなく、いつも結果がどうであっても主の前でただ与えられている分で最善を尽くす姿勢を言います。

愛するみなさん! いま私たちが住んでいるこの時代はおもてをみせるためにショー(show)をしているような時代、つまり表が大事な時代となっているのではありませんか。もちろんある程度の表は必要であり、大切な面もあります。しかし、ますますおもてだけでは信じられない時代になっています。信仰も、人間関係も、人の人生もそうではありませんか。この時代をみてみてください。人々は内面が大切である事を当然よく知っているにもかかわらず、ほんとうは外面をもっと大事にする時代になってしまいました(lookism)。それだけではなく人々は外見、持っている所有だけでその人の内面を判断する傾向があります。高価な有名なメーカーのかばんを持っていたり、美男美女の人は内面も当然きれいだろうと、すぐ信頼できると思い、見える表がそうでなければ、はじめからうたがってなかなか心を開けない傾向になっています。

今日聖書の御言葉は外的な誠実の以前、まず内面的にかかわることのない**信頼できる誠実**を強調しています。‘タテマエ’として人々の前で見せようとする以前、まず私たちの‘ホンネ’(つまり心と信仰)が真実であって、変わらない、信頼できる忠実な姿勢が私たちに必要ではありませんか。

<3. 忠実に対する神様の基準 >

主人からほめられたしもべの内容を読んでみると、忠実の意味がさらに分かって来ると思います。今日の本文 21 節に主人は 5 タラントを預けたしもべに次のようにほめて下さっています。だれかが読んでくださいますか。

“あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。”

事実同時の一タラントもけって少ない金額ではありませんでした。1 タラントは 6000 デナリ、1500 シェケル(日本語新聖書辞典,p.810)に相当したもので、当時一人の人がおよそ 20 年以上生活する大金額でもあります。ですから、今日のことで計算して見ますと、(12 ヶ月 X100,000 円 X20 年=2 千 4 百万円)になるほどかなりの大金額でした。ですから、5タラントなら、約 100 年は十分食べて生きる大金です。5 タラント預かったしもべがまた 5 タラントを残したのであれば、200 年も十分生きれるさらに大金になったのです。私ならこの人に“**私があなたに大金をまかせ、またあなたが頑張っていてさらにもうけてくれたのだ。ですからお前は私にはすばらしいしもべだ。!**”とほめるのに、聖書では神様に比喻されている主人はそうに誉めませんでした。

主人はただしもべが**わずかなものに忠実だった**とみとめました。主人の目には 5 タラントを残したのも人々から見ると、大きくて、すばらしく見えたものかもしれませんが、神様の目では**わずかなもの**だということです。私はそれが**神様の観点**だと思います。神様は人々の思っている大きい、小さい、重要、重要ではないことの基準とは違う観点でみられる方です。人々は大きいことだと思うことを任せられると頑張ろうとして、たいしたことのないことのように見えることだと思うとやろうともしません。しかし神様にはすべてのことが大きくて、大切なことかも知れません。反面人々のかんがえている大したことでないのが神様には大したことである場合もあります。

ですから神様の御前である人がまことに誠実を尽くしたのか否(いな)かは人が主の御前で何かが任せられても、任せられなくても、自分に預けられているものがすべての主のものであり、主からのものであることをいつも認めつつ、それを用いながら主のために仕えていくことだと信じます。

主に感謝しているのは我々の教会にはそのような兄弟、姉妹が多いからです。いつも、土曜日から教会の週報や教会の印刷を作るためため自分の時間、物質を払って下さっている方、いつも密かに主の教会のため惜しみなく献金して下さる方々、土曜日から来て食事を準備して下さる方々、CS で子供たちのために喜んで仕えて下さっている方々、自分の車を出していつもまわしながら送迎をしてく下さる方、いつも礼拝中奉仕される方々、食事の後、美味しいデザートを作ってきてみんなに分け与えて下さる方々、毎

朝早天や水曜祈り会に来られ教会や教会の家族のために祈ってくださる方々まで教会の家族の一人一人が目立たなくても、他の人々が分かってくれなくても、主から預けられた賜物を忠実に生かして下さっているみなさんの存在に今年も心より感謝しております！

< 4. 私たちがもっているすべての物が主から一時的に預けられているものです。 >

今日の本文の中で忠実、そして、タラントという言う言葉と共にもう一つ重要な単語がありましたら、“預ける”という言葉です。別に重要ではないように見えるかもしれませんが、今日の本文に 9 回も出ています。

神様に忠実な者として認められるための一番大切な条件と言えそれは**管理者の意識**すなわち、自分の持っているすべては自分の所有ではなく、真の主人である神の所有であり、自分はただ神様のものを預かっているしもべであることを信じる心です。今日の本文14節の御言葉をもう一度読んでください。

“天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。”

ここで ‘預けた’ という言葉が出ています。そういうわけですから、このしもべたちの立場で見ると彼らはただ主人のものを預かった者わけでした。主人が預けたものを管理する人、つまり預けたもののマネージャーだと言えるでしょうか。その人たちは主人ではなく主人のものを預かった者なのです。みなさん！もしたら預かった者としての良い管理者はどんな人でしょうか。それは確かに絶えず、主人の心、願い、志をよく考えて誠実に働いて行く者だと思います。

‘もし今主人だったら預けたものをどのように用いて欲しいのか、主人なら、どう思われるだろうか。主人なら、これをどのように使ってほしかったのか。’

自分の意図ではなく、預かった者として主人が望んでおられる事に気をくばるべきではないでしょうか。そういうわけですから、主人からどのぐらい預けられたのかはそんなに大事ではないと思います。人々はよく他の人たちと比較しながら、だれにどれぐらい預けられているのかによく関心をもっています。しかし、本当に大切なのは、どうすれば主人の御心のとおり、預かった全てのものをただしく使う事ができるのかだと信じます。一タラント預かった人がもし働いてその1タラントを失ったとしても主人は決して怒らなかったはず。なぜなら、主人はお金がほしいからしもべたちに預けたわけではありません。主人は彼らの忠実さを見たかったわけです！彼らのために十分な時間を与えるために長い時間を実は待てて下さったと信じます。

愛する信仰の家族のみなさん！

ですから、今年一年がみなさんにとってたくさん残るものがあまりなかったようだととしても、今年一年が思った通りにうまく行かなかったとしても、今年よくあやまちと失敗だらけだったとしても、大丈夫です！あなたは主の御前で忠実しようと背一杯生きて来たならばそれで主は喜んで下さっていると信じます！まだ主はあなたのために待てて下さっています。そして、また改めて始める新しい一年をお与えようとして下さっています。

実際人生の中で一タラント以上はみんな預かっています。今年も主は我々に1タラント以上みんなに各自にあわせてふさわしく預けて下さいました。私たちはみな時間、お金、健康、才能などさまざまなものをもう神様から預けられました。もちろん、相対的にほかの人たちよりもっとたくさん預けられている人がいれば少なくいただいた人も確かにいると思います。

しかし一回しかない生きる機会、その人生というものを我々に公平に預けて下さっています。大切なのは我々が主の御前でこの機会をどうやって使っているのかだと思います。主の御前で大切なことは、自分たちに預けられているたくさんのもではなく、自分にあずけられている全てを主の御心に従ってどれだけ良く使ったのかが主人にとってはもっとも大事である事を忘れないでください。

< 5. 忠実な主の者たちよ！まだ大丈夫ですよ！ >

昨日始まったかのような2012年が今週で終ろうとしています。神様は今日今年最後の礼拝として、私たちに人の人生にも生まれ人生が始まった時があれば、この地上での生きる一度の人生が終る時も来るということです。毎年が終るたびにその分、我々は主の御前に立つ時が近づいて来ているということになるでしょう。人生の清算の日、私たちがどちらかに分けられると思います。一つは“よくやった！善い忠実なしもべだ！”(21, 23節)と誉められる人生で、もう一つは“悪い怠(なま)け者のしもべだ！”(26節)だと人生の真の主人である神様から怒られる人生です。はたして今私と皆さんはどちらに属されると思いますでしょうか。

しかし、みなさん、恐れなくて下さい。不安に思わないで下さい。いつかは神様の御前に立つ時は決して裁きの日ではなく、涙をもって主の恵みと愛に感謝する日になれると信じます。

信じようが、信じないようが自分の人生にたいして主の御前に立ってかならず清算する日が来ることを覚えましょう。その最後の瞬間、私たちの創造主であり、救い主である主が私たちにむかって“よくやった良い忠実な私のしもべ! あなたはわずかなものに忠実だった! これから私とともに永遠にしよう!”という賞賛を受ける私とみなさん、そして我々教会となりますように切に祈ります。

そのために2012年今日最後の送年感謝礼拝として、もう一度、神様に今年も自分に預けられていることに感謝の心を忘れないで、人の目を意識せず、比較しないで、今自分に預けられていることにわずかなことでも神様の御前でそのことを大切にしながら、主のみちびきによって残されている今年の日、一日も忠実に生きるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みんなとなりますように切に祈ります。

そのような人々に主は“わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。”と祝福されたように、忠実に従ったみなさんに新年にはさらに主から豊かな祝福がみなさんに与えられますように主イエスキリストの御名によって切にお祈り申し上げます。

主の前で今年も忠実なしもべとして来られたみなさん! 今自分に預けられた、与えられた一タラントでも、ささやかなことでも、わずかなことでも尊いものとして感謝していきましょう。そのような方々はパウロが主にこう告白した御言葉のように主に告白できるよう。“ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです(コリント人への手紙第一 15:10)”

さらに来年! 主のためにまた堂堂と踏み出してみませんか。

主の御前でいつも恥ずかしいことなく、わずかな自分のことでも主のため用いられればと願いつつ誠実と忠実の実を豊かに結んで行く来年クリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主の御名によって祝福します。アーメン!!